



## 第3回 インスリン注射は「最終手段」？ 違います！

● 内科医長 武田 昌也

膵臓から分泌され、血糖を下げるホルモンであるインスリン。糖尿病の治療薬としてインスリン注射は重要ですが、患者さんにインスリン注射を提案しても、「できればインスリンはしたくない」と考える方が少なからずいらっしゃいます。

こんなやりとりを時折経験します（内容は脚色しており、実際の患者さんとは無関係です）。



患者さん「インスリンは絶対したくないです」

私 「したくないのですね」

患者さん「知人がこの前インスリンを始めたと聞きました。

自分は絶対したくないです」

私 「なるほど。そのお知り合いの方、なにかインスリンを始めて不都合なことがあったとか、そういった話はされました？」

患者さん「それは……聞いたことなかったのではありません」



インスリン治療について、いろいろと抵抗感・不安感を持っていらっしゃる患者さんは多いです。本稿ではそういった患者さんの疑問に答えてみたいと思います。

**Q：インスリンって糖尿病治療の「最終手段」と聞きましたが。**

**A：**過去にはそのようにとらえられていた時期もありましたが、現在では膵臓を休ませて膵臓の機能を回復させ、糖尿病の合併症を予防する目的で、早期からインスリンを導入するケースも増えています。決して「最終手段」という言葉はあたらなくなっています。

**Q：インスリンをひとたび始めると、やめることはできないのですよね。**

**A：**インスリンは依存性のある薬剤ではありません。また、インスリンを用いて膵臓を休ませ、一度血糖が下がってくると、その後は自分の膵臓から出てくるインスリンがうまく働くようになり、結果的にインスリン治療を中止できる、そういったことも数多くあります。

**Q：毎回痛い思いをして注射をしたくありません。  
注射薬を注射器に吸わせるのも大変そう。**

**A：**注射針の太さは0.2～0.3mm程度と非常に細く、痛みはほとんどありません。また、現在使われているインスリン注射のほとんどはペン型製剤で、注射薬を注射器で吸うといった操作も必要なく、手軽に注射することができます。



インスリンのキット製剤。先端に細い針を取り付けて注射します。

**Q：知人は1日4回注射をしているそうですが、忙しくてできそうにありません。**

**A：**持効型インスリン（効果がゆっくり長持ちするインスリン）を1日1回注射し、内服薬と併用して血糖の降下を図る方法もあります。主治医の先生に相談してみてください。

**Q：実際、インスリンを始めた患者さんはイヤイヤ続けてるのでしょうか？**

**A：**インスリン治療を開始した患者さんの約半数が、「インスリンを始めて良かった」と思っているとの調査結果があります。先ほど提示した患者さんの例でも、お知り合いの方は、もしかしたらインスリン治療を早く始めて良かったと思ってらっしゃるかもしれませんね。

今回の記事が、インスリン治療についての誤解を解くのに少しでも役立てばうれしいです。また、インスリン治療に限ったことではありませんが、当院の糖尿病センターでは医師のみならず看護師、薬剤師、管理栄養士など多くのスタッフが、患者の皆さんの疑問・不安をできるだけ解消し、安心して治療に当たっていただけるよう努めております。わからないことがありましたら、スタッフにぜひお尋ねください！